

組合員アンケートの結果



令和 5年 3月 1日

烏川流域森林組合

令和4年度

森林組合員アンケートの結果について

1:調査の目的

組合員の抱える課題や意見を把握し、それらの解決や反映を通じて組合の事業の一層の進展を図るとともに、組合員サービスを拡充することを目的としアンケートを実施しました。

2:調査の方法

全組合員を調査対象とし、発送、回収ともに郵送としました。

3:調査の期間

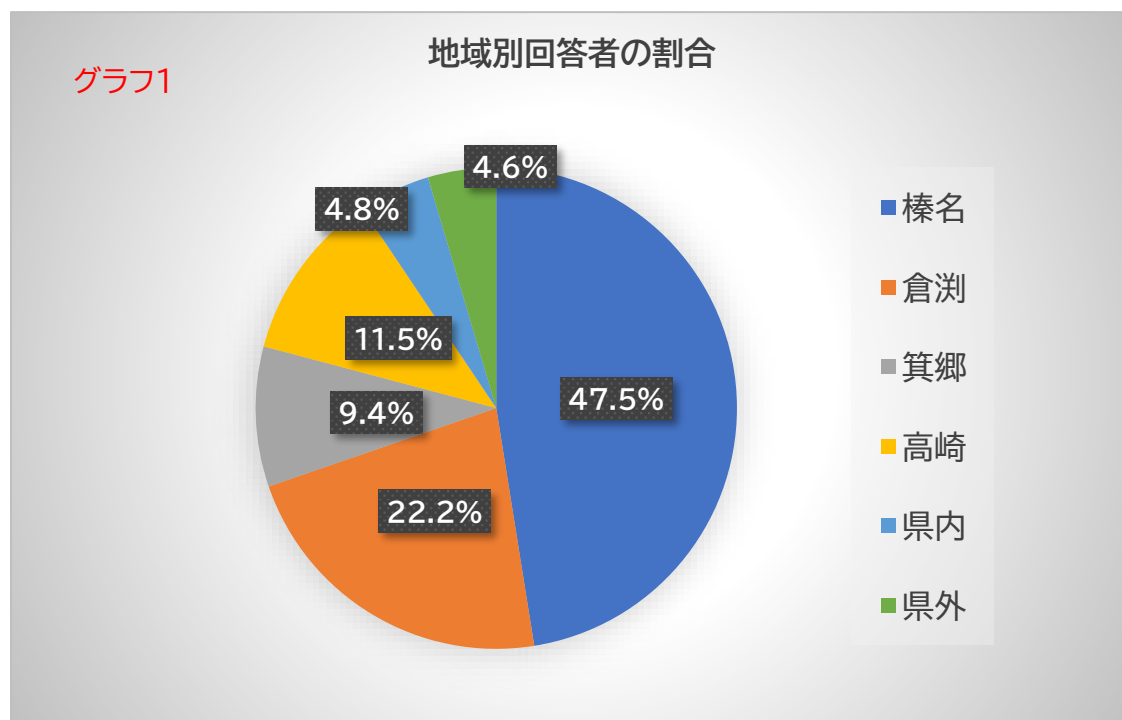
令和4年10月14日に調査票を発送し、令和4年11月30日を提出の期限としました。

4:回答者数

10月14日現在の組合員数は、正組合員、準組合員合わせて1,796名で、うち回答提出者は541名でした。

回答率:30.1%

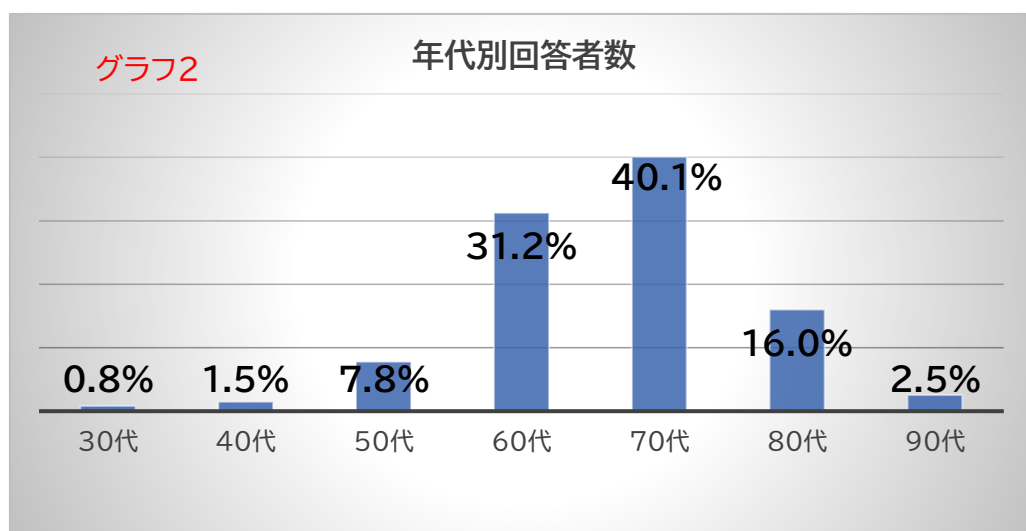
5:地域別回答者の割合



6:年代別回答者の割合

これまで組合員の年齢、年代構成を調べる術もなく、ただ漠然と高齢化の進展で、組合員の平均年齢もかなり上がっているものと捉えていましたが、今回の調査はそれを裏付ける傾向が示されています。

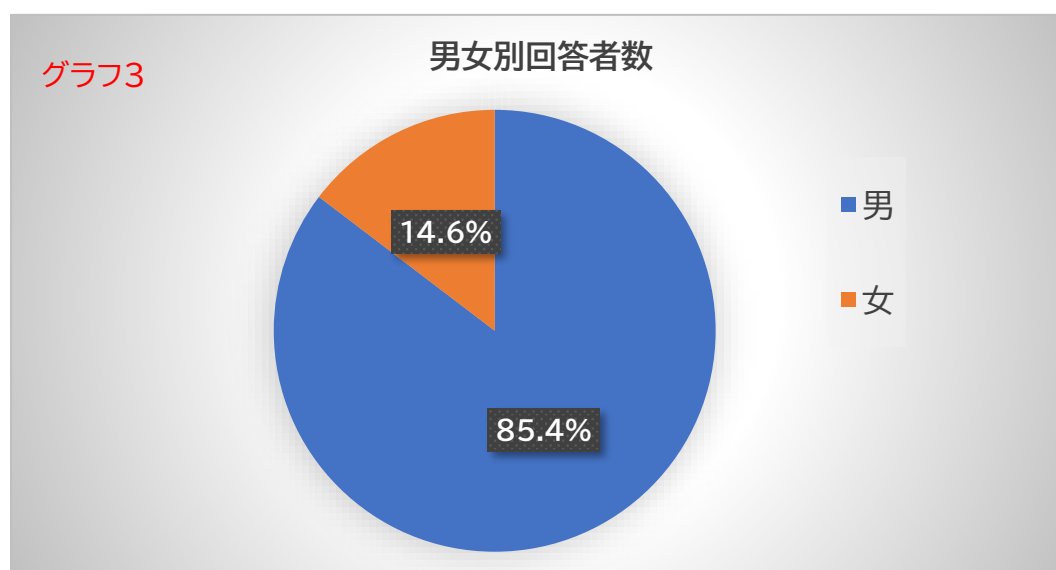
グラフ2に示すように70歳代が40.1%と最多で、60歳代、70歳代の組合員数が突出しており、両年代を合わせると実に71.3%にも達しています。



7:男女別回答者の割合

この調査から得られた組合員の男女比は、6：1。かなりの差はあるものの、女性組合員が一定数いることもわかりました。

現在、理事・監事や総代に女性はおらず、この調査で得られた比率を最低限とし、より多くの女性組合員が組合運営に参画することが欠かせません。



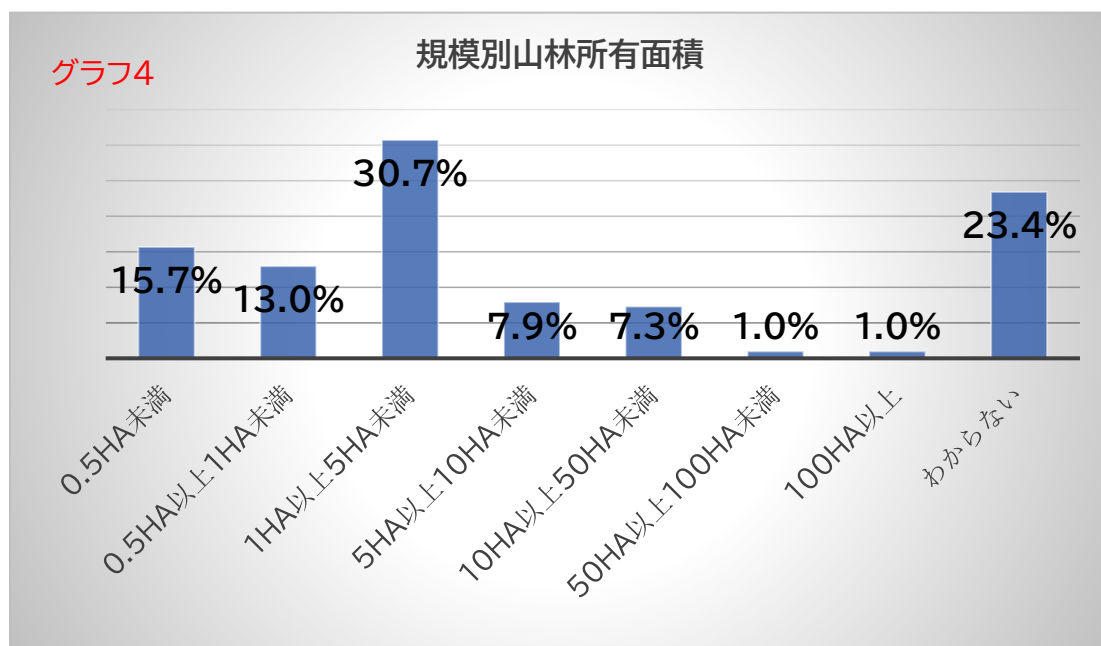
アンケートの結果

1 組合員の規模別山林所有面積

Q1 あなたの所有している山林面積は？

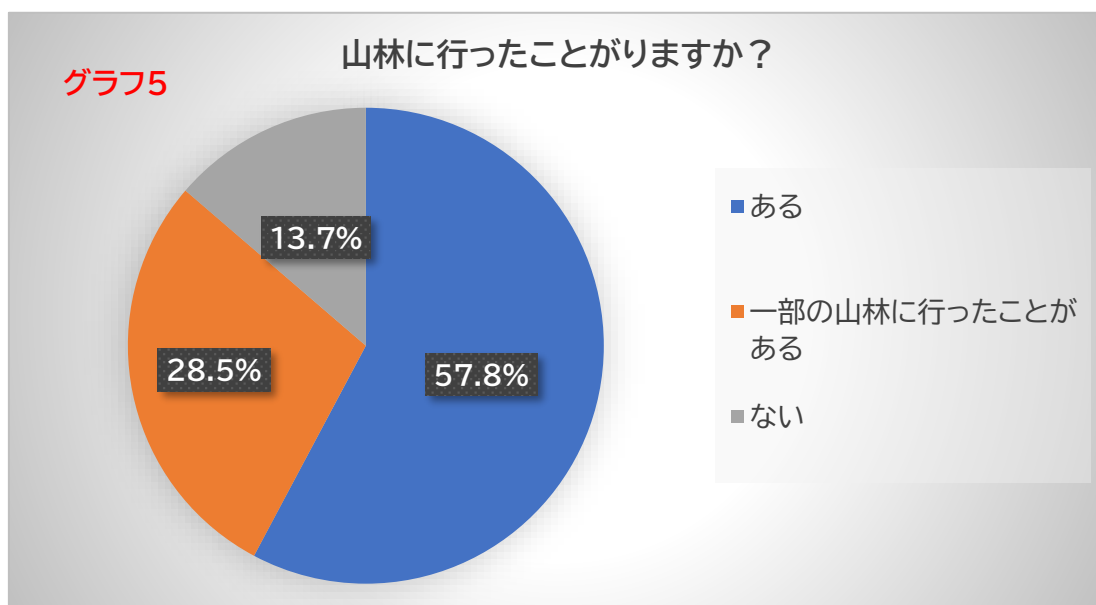
本組合の組合員となるための所有山林面積要件は 0.1ha です。所有面積別では 1 ha 以上 5 ha 未満の所有者が最多で、30.7%を占めています。50ha 超、100ha 超も、それぞれ 1%程度で、大面積所有が少ないということも本組合の特徴です。

この調査で特筆すべきは、所有面積がわからないという回答が 23.4%もあったということ。これは、正確な数字がつかめないのか、あるいはまったく見当がつかないのか、その辺りは不明ですが、いずれにしても山林についての関心が薄いことの現われであると考えられます。



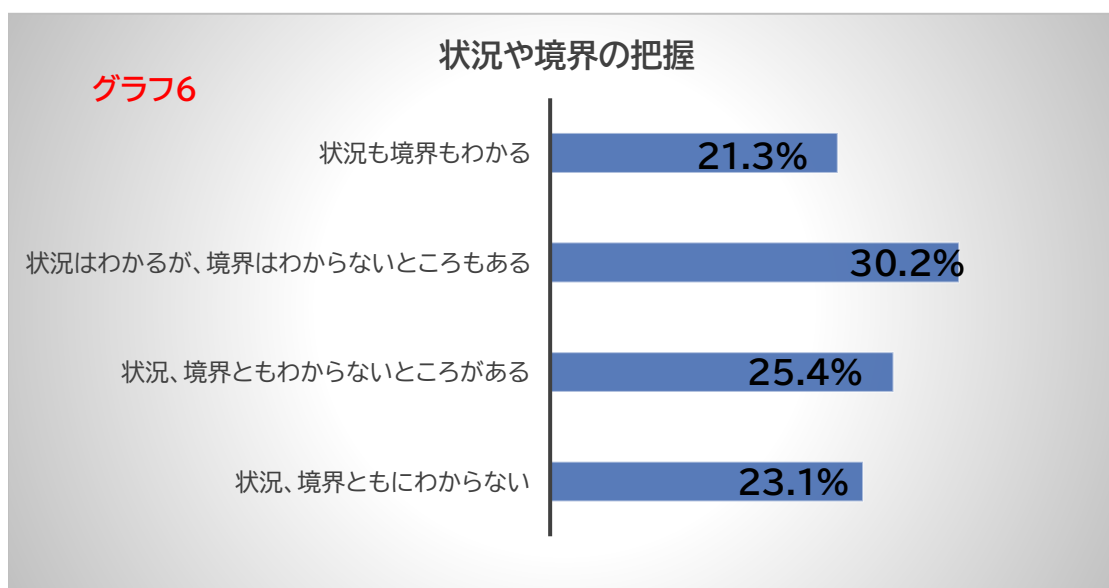
Q2 あなたは所有している山林に行ったことがありますか？

グラフ5に示すとおり、13.7%が行ったことがない、28.5%が一部の山林に行ったことがあると回答。所有する山林がどこにあるかわからない、不在村山主である等の理由が考えられますが、山林・林業への関心が薄れていることに帰着するのではないのでしょうか。



Q3 あなたは所有している山林の状況や境界を把握していますか

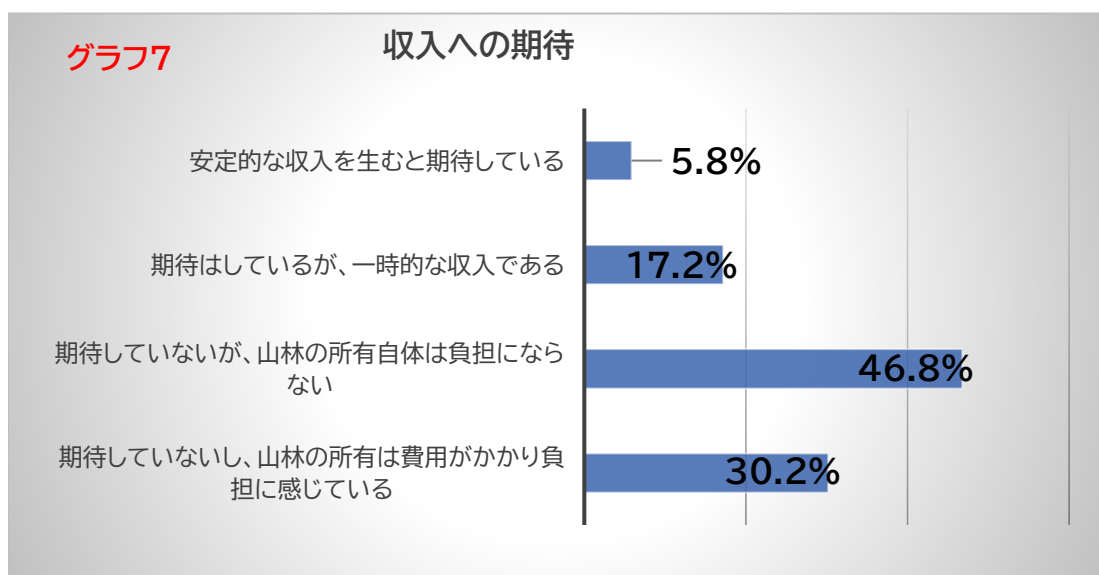
グラフ6に示すとおり、所有山林の状況も境界もわかるが21.3%に対して、「あいまい」や「わからない」の回答が、78.7%にものぼりました。後述の自由記述には、特に「境界がわからない」ために、子に相続させたくない、処分してしまいたいとの記述が多く寄せられています。



Q4 あなたが所有している山林が、いつか収入を生むことを期待していますか？

収入を期待している、期待していないに大別すると、期待しているは23%、期待していないは実に77%にも達します。さらに、期待しているの中で「安定的な収入を期待している」は5.8%に過ぎません。

ウッドショックに伴う一時的な価格の上昇はありましたが、これまで木材価格の低迷が長く続き、「山なんか持っていて、一銭にもならない」が既定の事実として刷り込まれてしまっているようです。



Q5 あなたが管理している山林の、今後の管理、所有について教えてください

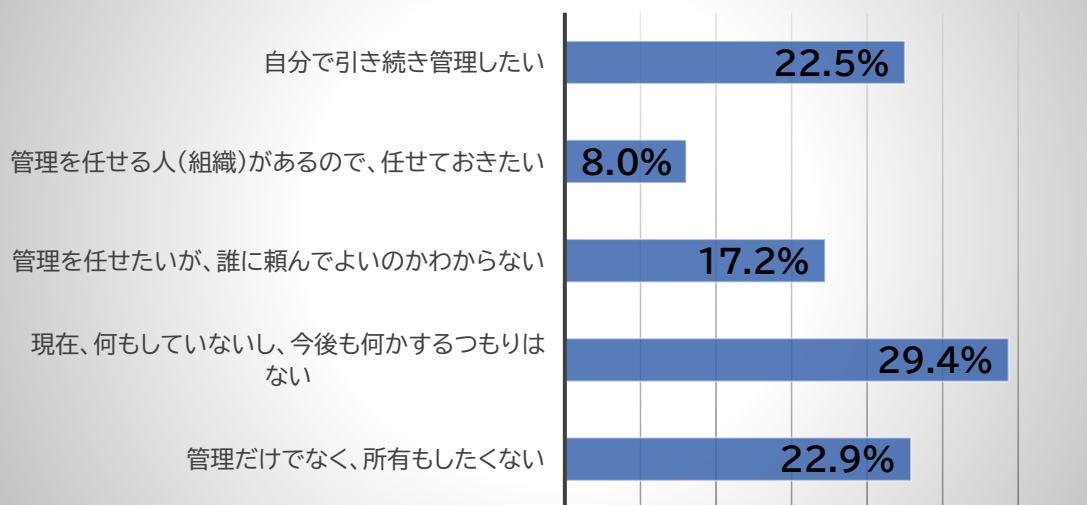
① 管理について

グラフ8に示すとおり。「現在、何もしていないし、今後も何かするつもりはない」という放任状態との回答が29.4%、「管理だけでなく、所有もしたくない」という放棄状態が22.9%、この放任と放棄を合わせると半数超の52.3%に達します。

「管理を任せたいが、誰に頼んでよいかわからない」の回答が17.2%ありますが、森林経営管理制度の進展によって市町村に管理を委ねることにより、この数字は改善の道は開けそうです。

グラフ8

今後の山林の管理について



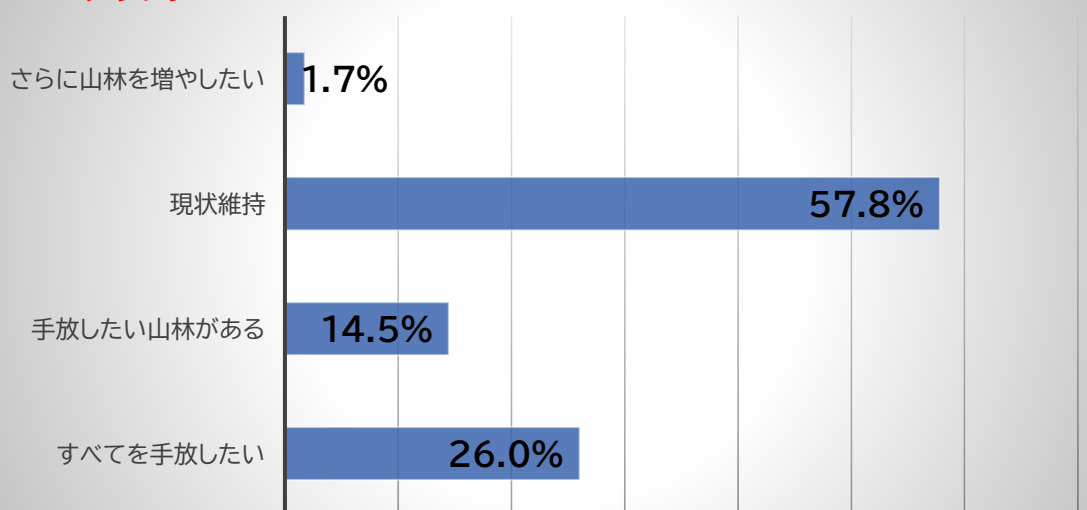
②所有について

グラフ9に示すとおり、積極的に山林面積を増やそうという組合員は1.7%に過ぎず、57.8%の組合員は現状維持ですが、「手放したい山林がある」と「すべてを手放したい」を合わせると40%を超えます。

次問の森林組合に望むことでは、手放したいという組合員の考えを反映し、「山林の売買の仲介」を望む声が多くなっています。

グラフ9

今後の山林所有について



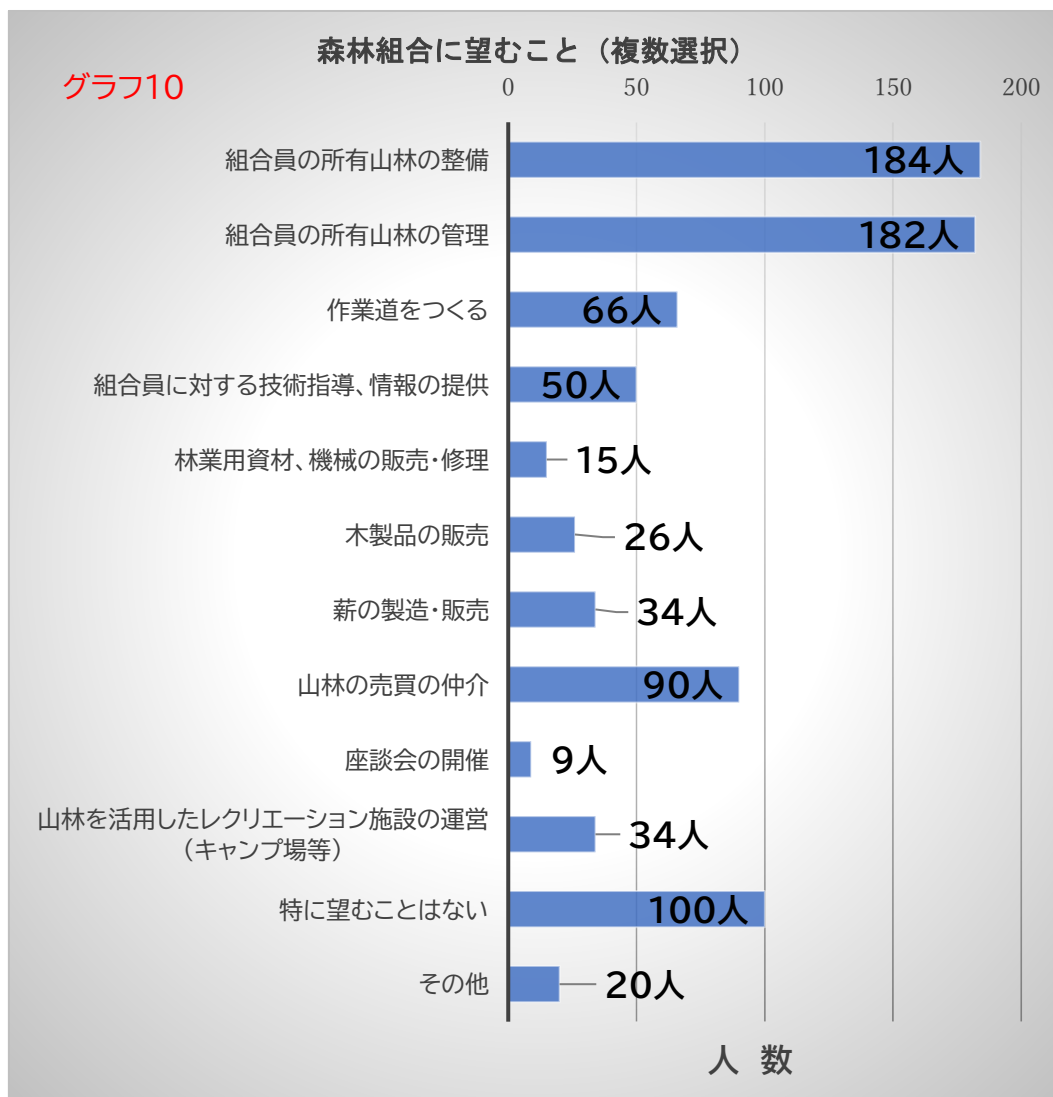
Q6 あなたが森林組合に望むことはどのようなことですか？

グラフ10に示すとおり、「所有山林の整備」、「所有山林の管理」が最多となったのは想定内のことです。これに次ぐのが「山林の売買の仲介」で、これは予想外の驚きでもありました。

また、「望むことはない」と100人が回答しています。これには、「組合の活動や事業に十分満足している」、そして、「組合なんかに望んでも仕方がない」という諦めと捉えることができますが、後者が大半だと思えます。

さらに、自由記述の中には「森林組合の存在意義が不明」との記述が散見されます。

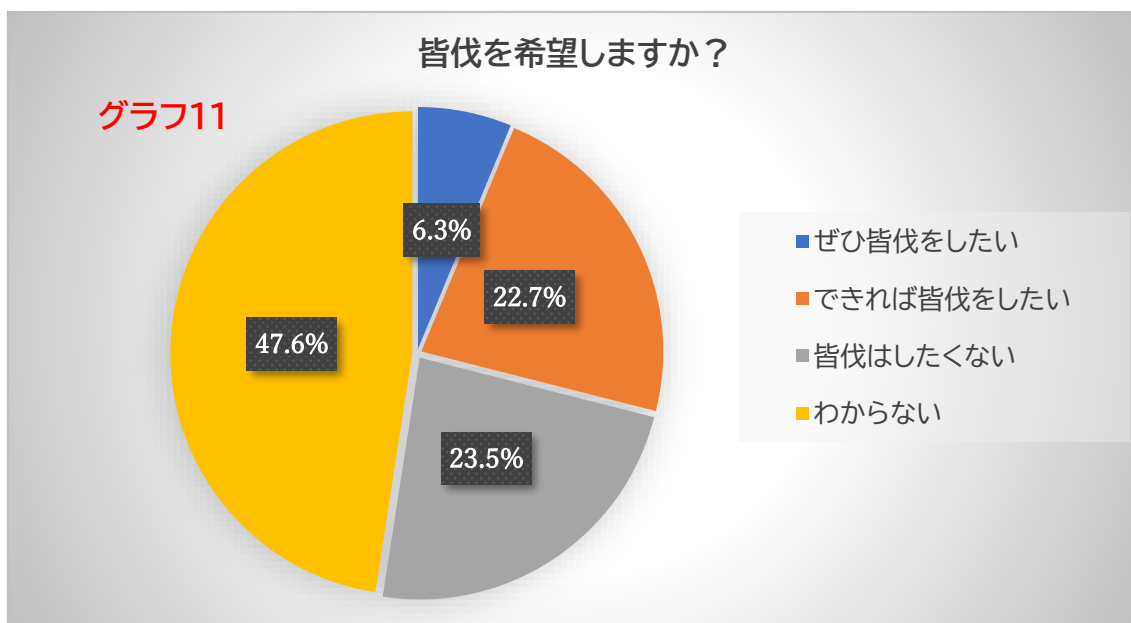
本組合ではこの結果をしっかりと受け止め、森林整備だけでなく組合員所有林の経営受託、山林売買の相談・仲介窓口を設けるなど、既存の事業だけでなく組合員サービスの一層の向上を図り、信頼される組合づくりを行わなければならないと考えています。



Q7 皆伐を希望しますか？

グラフ 11 に示すとおり、約半数の 47.6%が「わからない」と回答。これは、皆伐（再造林を含めて）に関する森林組合からの説明の不足や、組合員自らが所有山林の状況を把握しておらず、その立木が皆伐の対象となるものと捉えられていないためと考えられます。

令和 4 年 4 月に策定した「森林組合系統運動ビジョン 2030」において、本組合では皆伐を現行の ha から、令和 1 2 年度には 100ha に増やすという目標を掲げています。今後、森林資源循環の観点からも皆伐、再造林に力を傾注していこうとする計画であり、組合員の理解を得るための説明を積極的に行わなければならないと考えています。



Q8 「皆伐はしたくない」の理由は？

グラフ 12 に示すとおり、「再造林に金がかかる」との回答が 44.5%と最多でした。ウッドショックに伴い木材価格は上昇したものの、皆伐後の再造林には多額の経費がかかるため、皆伐で得られた収入は吹き飛んでしまい、かえって資金を投入しなければならないのでは、という不安の表れではないかと考えられます。

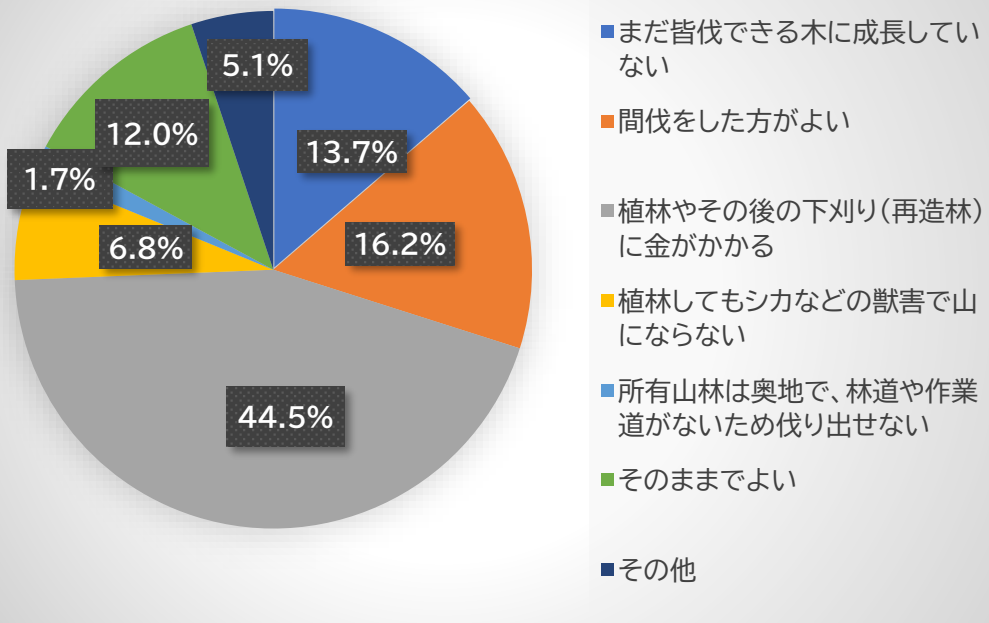
木材を伐採して使い、植え、育て、また伐採して使うという、循環型林業の確立が求められており、皆伐・再造林は今後ますます重要になってきます。

森林組合では、木材の有利販売と、効率的な皆伐・再造林施業による経費の節減を図り、再造林を行っても収益の手残りがあるように努めなければなりません。

さらに、獣害対策についても、経済性も考慮しながら新しい技術を積極的に導入し、組合員の不安を払拭していく必要があります。

グラフ12

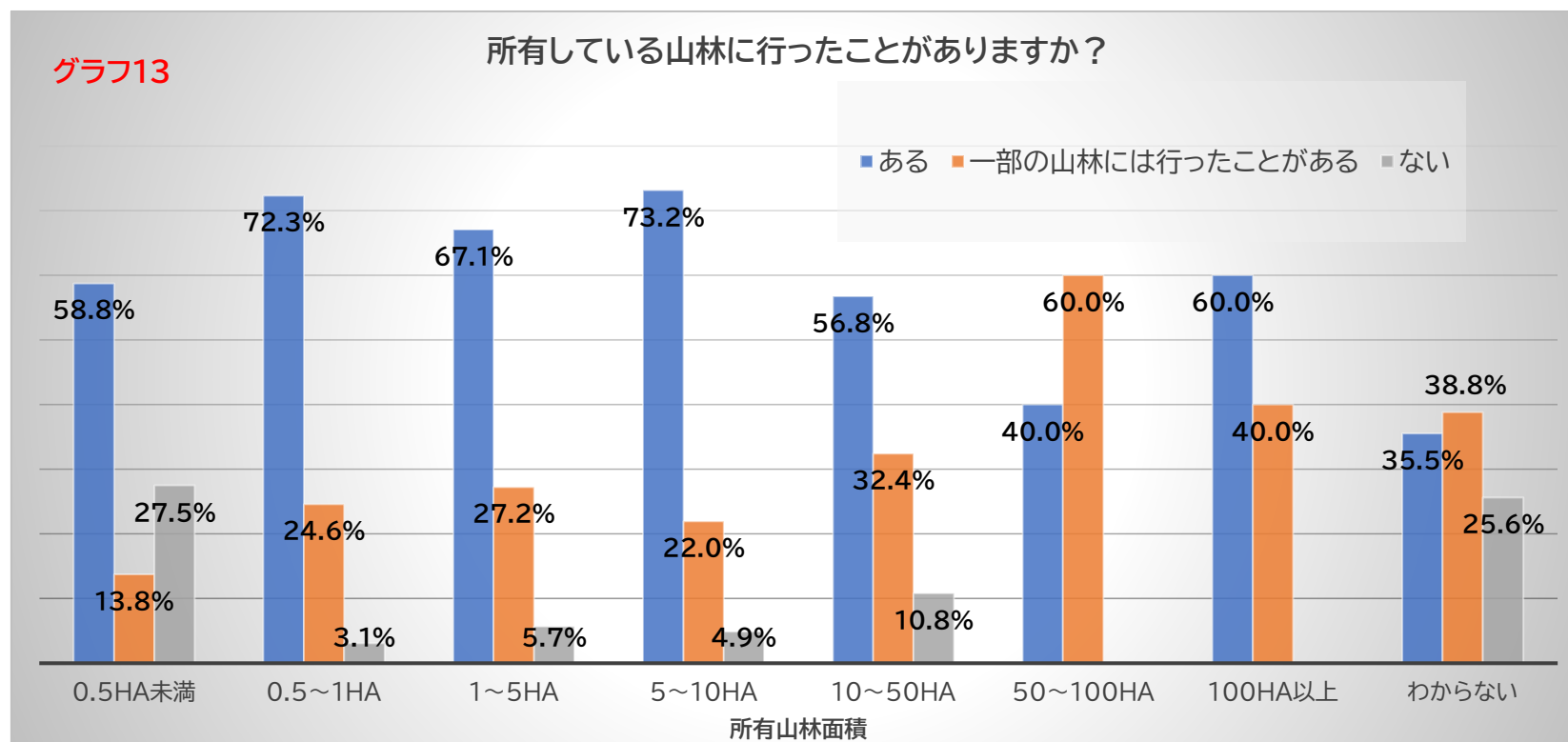
皆伐をしたくない理由は？



所有山林面積別での分析結果

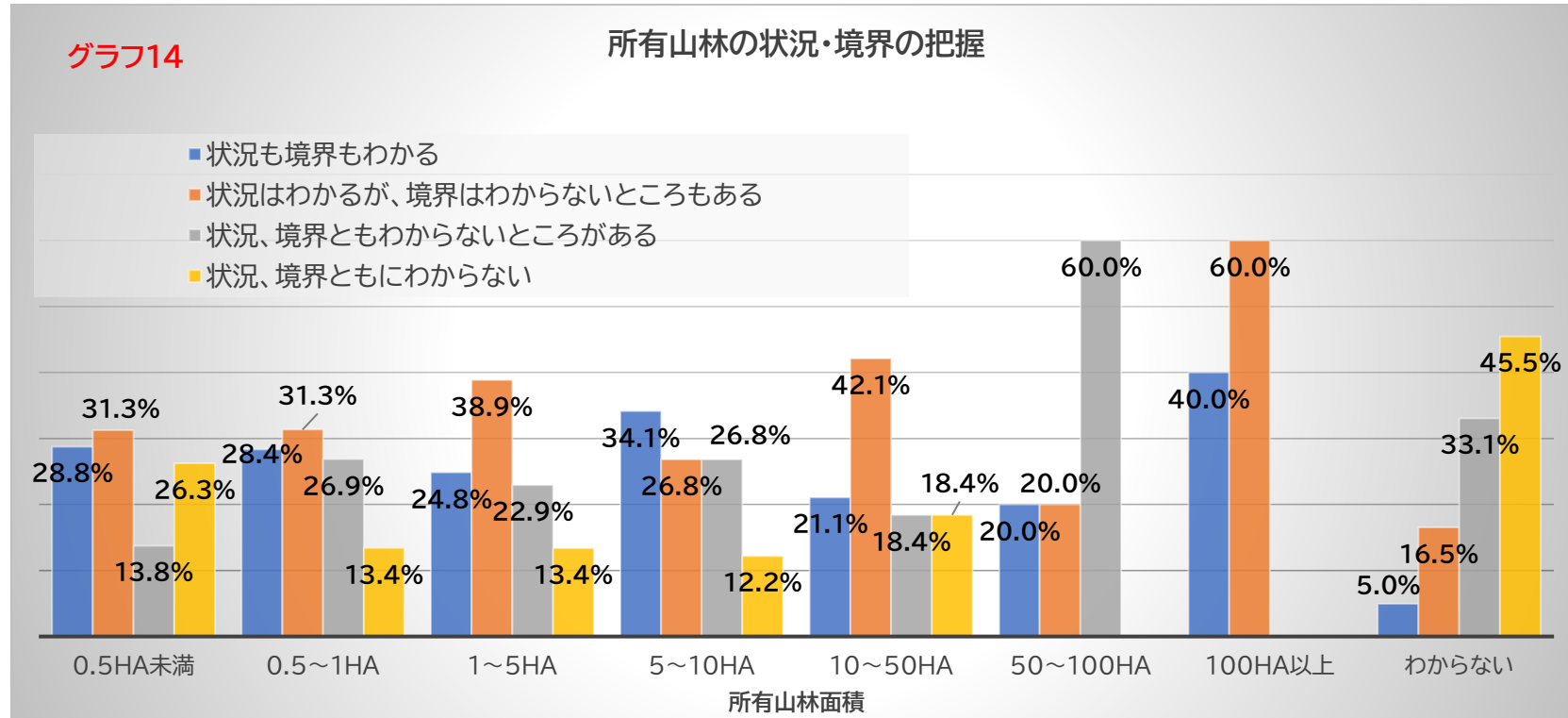
Q2 あなたは所有している山林に行ったことがありますか？

所有面積が「わからない」と答えた階層と0.5ha未満は、「行ったことがない」との回答が、それぞれ25%を超えています。「行ったことがある」には所有面積による傾向の明確な差異は見られません。



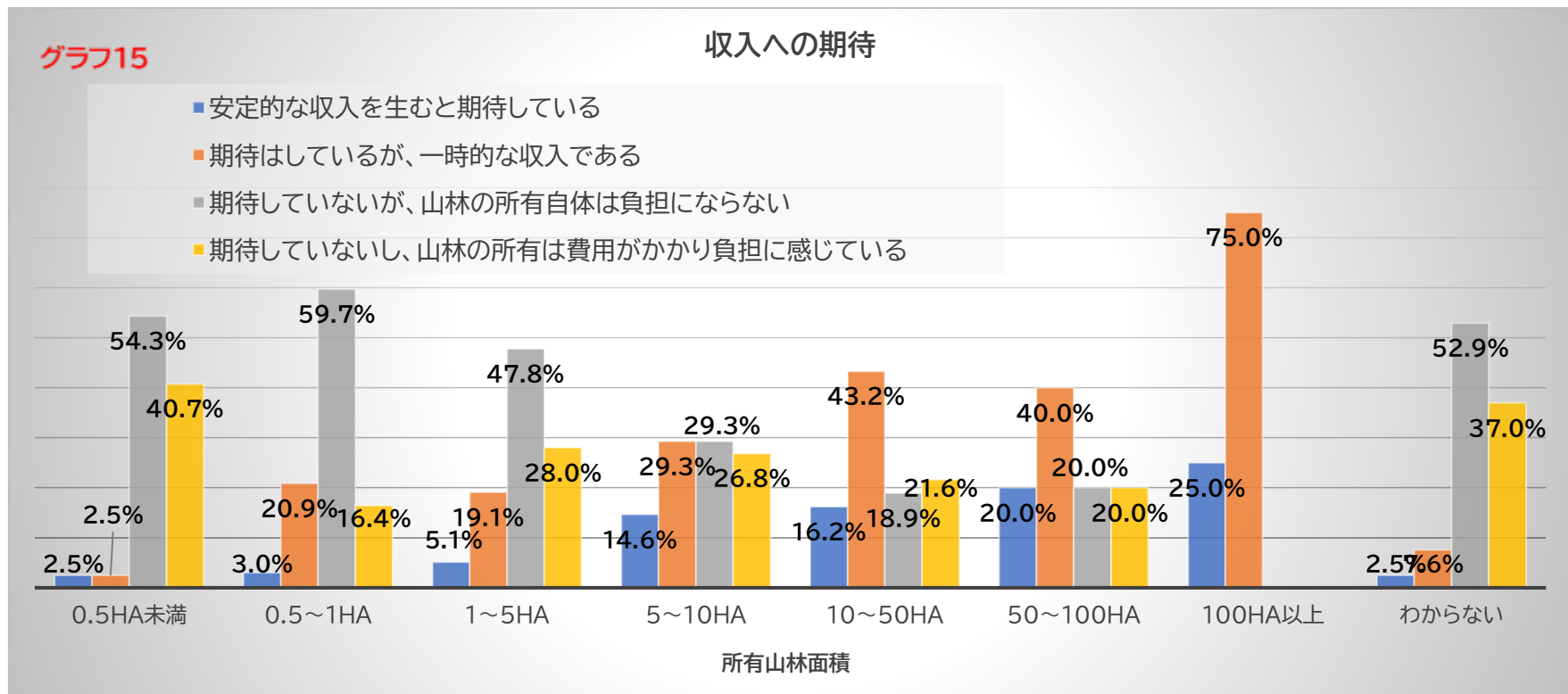
Q3 あなたは所有している山林の状況や境界を把握していますか？

所有山林面積がわからないと回答した人では、「状況も境界もわかる」が5%に留まり、「状況、境界ともにわからない」がその約9倍の45.5%に達します。「状況、境界ともにわからない」は0.5ha未満では26.3%で、所有面積が大きくなるにつれ値は減少し、10～50haでは増加しますが、50ha以上の階層では皆無になっています。



Q4 あなたが所有している山林が、いつか収入を生むことを期待していますか？

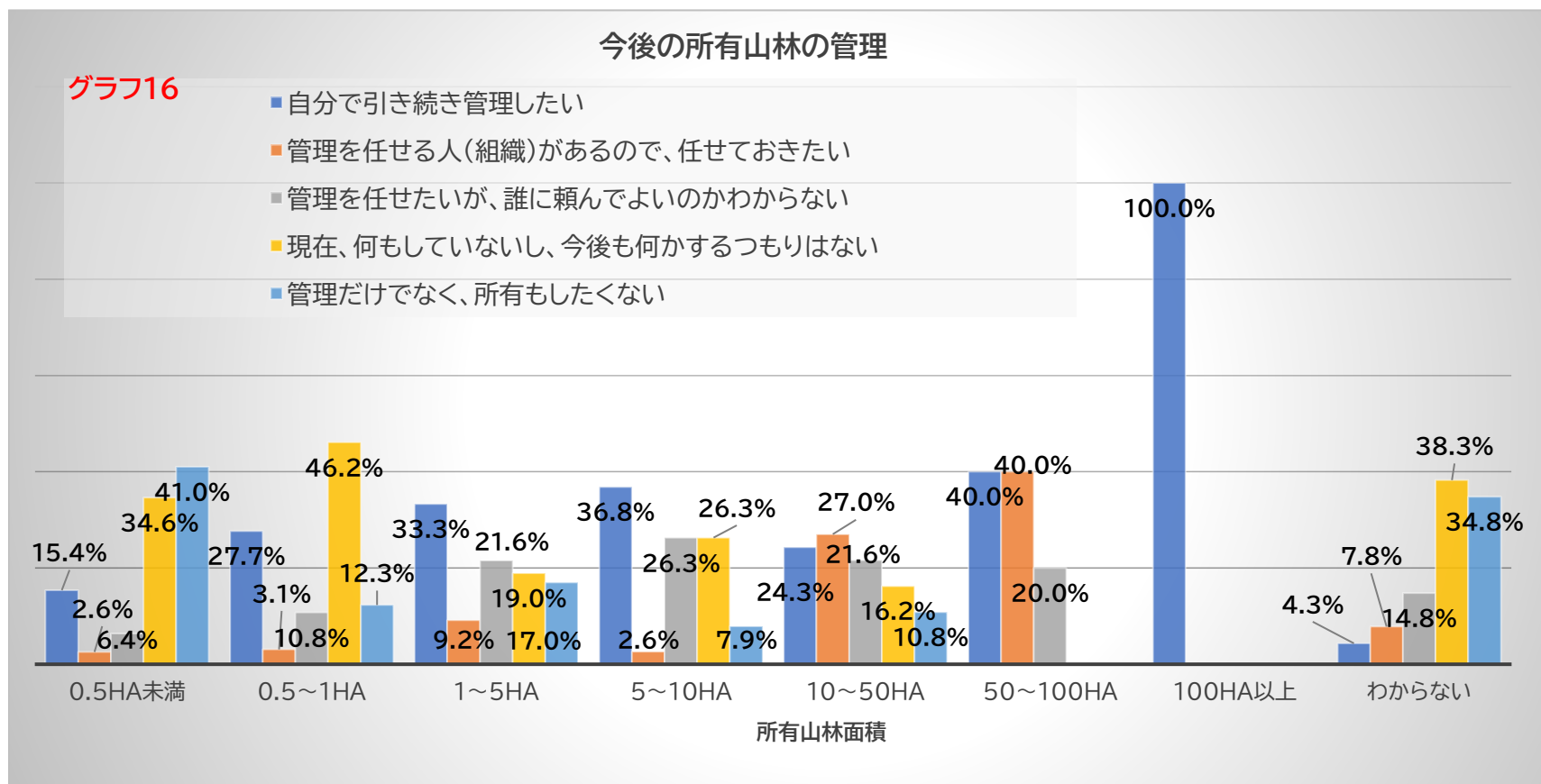
所有面積が大きくなるほど「安定的な収入を期待している」の割合が増加しています。反対に、所有面積 0.5ha 未満では「収入を期待していない」が 95%に達し、中でも「所有は費用がかかり負担に感じている」が 40.7%に達しています。また、所有面積が増えるにつれ、「期待していない」の割合が低下し、反対に「期待している」の割合が増加する傾向にあります。特に、100ha 以上の階層では「期待していない」は皆無になっています。



Q5 あなたが管理している山林の、今後の管理、所有について教えてください。

① 管理について

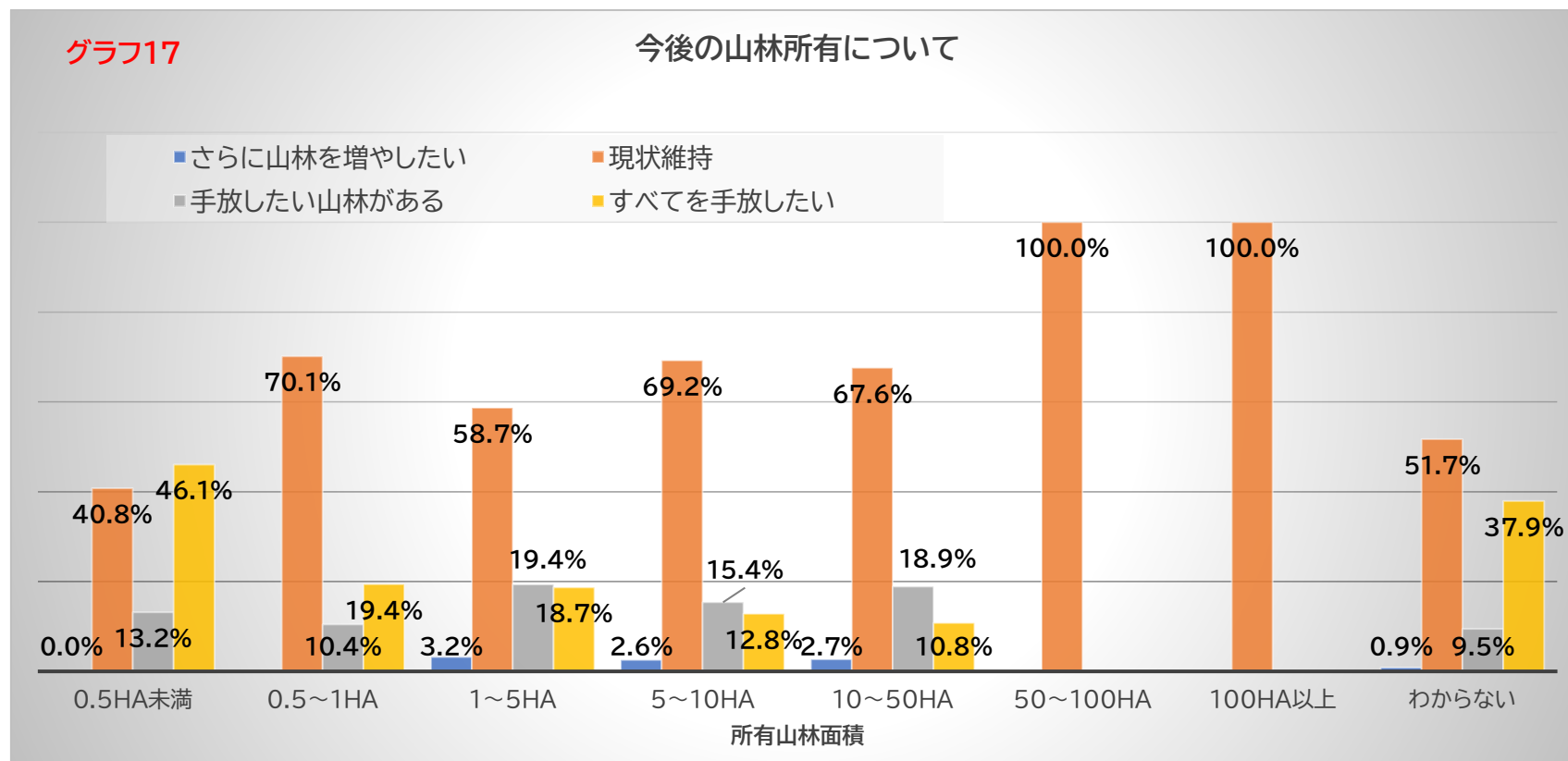
所有面積 0.5ha 未満では「現在何もしていないし、今後も何かするつもりはない」の放任と「管理だけでなく、所有もしたくない」の放棄を合わせると75%に達し、この値は、所有面積が増えるにつれて小さくなっています。



②所有について

所有面積 0.5ha 未満では「すべてを手放したい」が半数近くを占め、この割合は所有面積が大きくなるほど低下しています。

「さらに山林を増やしたい」は、所有面積 1～5ha、5～10ha、10～50ha の中間階層のみで、1ha 未満の小面積と 50ha 以上の大面積の階層では皆無となっています。



Q7 皆伐を希望しますか？

所有山林面積が10haまでの階層では、面積が増えるほど「皆伐はしたくない」が増えており、「わからない」の回答が減少しています。「できれば皆伐をしたい」は、10～50haの階層でやや高くなっていますが、他の階層間でのばらつきはありません。「ぜひ間伐をしたい」という皆伐に積極的な回答は10ha以上では皆無となっており、所有面積が大きい階層の皆伐への慎重な対応がうかがえます。

